

令和 5 年度 社会福祉法人慈照会事業計画

通常規模型通所介護事業
短期入所生活介護事業
介護老人福祉施設事業
訪問介護事業
居宅介護支援事業
ケアハウス事業

令和 5 年度社会福祉法人慈照会事業計画

1. 基本方針

わが国経済は、新型コロナウイルス感染症に係る行動制限が緩和されたことに伴い、経済活動は持ち直しの動きが見られているが、エネルギー・原材料価格の高騰、円安進行等による国内景気や企業収益、個人消費への影響が懸念され、先行きは依然として予断を許さない状況が続いている。

新型コロナウイルスについては、5月8日の感染症類型の見直しにより対応が変わってくるが不明確な点も多く、ウイルスへの注意が必要な状況は続く。クラスター対策等、発症を想定した対応は継続する。

次世代の介護人材の確保では、リクナビを活用し新たな人材との接点づくりを継続する。人材採用のノウハウが蓄積され、体制が充実してきている。課題であったホームページを一新し、リクナビと連携し、定期的な情報発信を進める。

定着では、働き方改革の推進、介護ロボット、デジタル化等のテクノロジーの積極的な導入による生産性の向上、備品の入れ替え等職場環境の改善を計画的に進める。リクナビ、エイデル研究所等を活用し、キャリアパスに応じた職員の教育体制を整備する。

今一度社会福祉法人としての使命を意識したい。公益的な取り組みを継続し、地域の福祉ニーズを把握し、双方向の支え合いを進める。職員採用においても、社会課題に関心を持つ優秀な人材の確保に繋がるものであり、地域共生社会の実現に向けて、地域の信頼と期待に応え、中核的な役割を果たしていきたい。

令和6年4月の介護報酬改定に向けて、感染症/災害に係る業務継続計画(BCP)の作成、科学的介護(life)推進体制及び加算体制の整備は不可欠であり、計画的に進めたい

引き続き物価上昇への対応が大きな課題となっており、コスト意識の醸成とコスト削減について積極的に進める。介護事業者の休廃業が過去最多となっている厳しい状況の中、安定した収入と人材を確保しながら優位に事業を進めていきたい。

※重点目標

(1)次世代人材の確保・定着と働きやすい職場づくり

リクナビによる新卒中途採用、介護機器/ICT/介護ロボットの積極活用、就業時間管理の徹底、介護機器/ICT/介護ロボットの導入と学び

(2)職員教育体制の充実とキャリアアップの推進

次世代を育成する仕組みづくり、キャリアパスに応じた研修体系の整備、認知症研修会への積極参加、資格取得促進、能力/実績による明確な人事評価の徹底、福祉のキラビトプロジェクトへの参画と実践

(3)地域交流と貢献

羊の飼育と交流、地域サロン支援、三方よし主催初任者研修/外国人介護職員養成研修への協力、各種団体の役員活動の参加、高齢/障害/保育とのネットワークへの参加

2. 事業別重点目標

【通常規模型通所介護事業】(定員:30名)

認知症対応型通所介護は4月末にて廃止し、職員体制を通常規模型に集約する。70,000,000円を収入目標とする。

重点目標: 職員の介護技術の向上、利用者の安心できる環境づくりにより、利用者増を目指す

- ・定期的な勉強会の実施、外部研修の参加により、職員の質の向上に努める
- ・快適に過ごしてもらえるような場所、配置の変更
- ・営業時間内のタイムスケジュール、趣味活動、アクティビティの見直しを行う

【短期入所生活介護事業】(定員:16名)

80,000,000円を収入目標とする

重点目標: 「働きやすい」「魅力がある」「やりがいがある」職場づくりを目指す

ワークエンゲージメントを高め、利用者との介護職がより良い関係を築ける取組みを実施します。

1. コミュニケーションを活発に行い、情報共有を促進する
2. 介護職の心理的安全性を高め、精神的負担を軽減する
3. やりがいを感じることで利用者との信頼・安心感を高める

【介護老人福祉施設事業】(定員:54名)

210,000,000円を収入目標とする

重点目標: 感染症対応も考慮した安全と安心が確約された看取り体制の整備と実施

看取り介護に必要な知識の蓄積及び多職種間の連携を強化し、入居者、ご家族の様々な看取りニーズに対し、環境を整備し、専門職としての「安全」を主に医療職、「安心」を介護職が中心に担っていく。

【訪問介護事業】

30,000,000円を収入目標とする

重点目標: ご利用者の人生の困難な時期に関わる意識を持ったサービスの提供の実施

常にきめ細かく対応し、その人らしい普通の生活を安心安全に過ごしてもらう。特に困難事例は情報をきちんと共有し対応したい。介護者のできるできないにも配慮し、ご本人のできることは頑張ってもらい、在宅生活に幸せを感じてもらえるよう支援する。

【居宅介護支援事業】

6,500,000円を収入目標とする

重点目標: 適切なケアマネジメント手法を中心とした計画作成に努める

「適切なケアマネジメント手法」の考えに沿ったプランの見直しを行い、ケアマネジメントの質を上げていく。

【ケアハウス事業】(定員:15名)

早期に満床を確保し維持する

重点目標: 待機者確保と満床維持

早期に満床を確保する為、情報発信と営業活動を重点的に行う。コロナ禍で失った入居者の生活の潤いを取り戻す為、行事や訪問販売などを再開し生活満足度を向上させたい。重度化してくる入居者のADLができる限り維持出来るように、個々の支援を見直し生活を支えていきたい。

3. 年間行事予定等

上半期		下半期	
4月		10月	入居者健康診断 夜勤者健康診断
5月	第1回夜間想定避難訓練	11月	第3回理事会(上半期事業報告、補正 予算等) 第2回総合避難訓練
6月	第1回理事会(事業報告・決算) 第1回評議員会(事業報告・決算、役 員改選) 第2回理事会(理事長選任)	12月	
7月	第1回総合避難訓練	1月	年賀式 第2回夜間想定避難訓練
8月		2月	
9月	職員個別消防訓練①	3月	職員定期健康診断・ストレスチェック 第4回理事会(事業計画・予算) 職員個別消防訓練②

※施設内会議

経営会議(月1回) スタッフ会議(週1回) 給食会議(月1回)

デイ会議(適時) ショート会議(適時) 特養会議(適時) ヘルパー会議(適時) ケアハウス会議(適時)

※委員会活動等

研修教育体制プロジェクトチーム 環境整備委員会